

〔 作 物 〕

水 稻 新 品 種 「ミ ズ ホ」 に つ い て

内山田博士・新村善弘・上野貞一・衛藤信男・森 篤
(宮崎県総合農業試験場)

UCHIYAMADA, H., SHINMURA, Y., UENO, S.,
ETO, N. and TODOROKI, A.
A New Rice Variety "MIZUHO"

水稻南海53号は、昭和49年から鹿児島、宮崎両県で奨励品種に採用され、通称名を「ミズホ」として普及に移されることになったので、育成経過と特性の概要をのべて参考に供したい。

来歴ならびに育成経過

ミズホは昭和39年宮崎県総合農業試験場で、宮系1430を母、36-2 (現在の鈴風) を父として人工交配を行ない、翌年 F₁ および F₂ を養成し、昭和41年 F₃ において個体選抜を行ない、以後系統育成法によって選抜固定をはかったものである。昭和46年より「南海53号」の系統名で関係県に配付して、地方的適否を確かめてきた。昭和49年 F₁₁ で水稻農林235号に登録、通称名を「ミズホ」と命名された。

特 性 の 概 要

1. 形態的特性: 稈長はレイホウよりやや短かく、穂長および穂数はやや少ない短稈偏穂数型粳種である。稈の太さはレイホウ程度、稈先色は白、稈色は黄白である。稀に短芒があり、粒着は中、脱粒性は易。玄米は中粒で整粒および光沢がすぐれ、心白がなく、腹白もほとんどなく、また地域差や年次変動が少なく、米質は極めて良好で安定性がある。食味はレイホウ並かややまさり良好である。止葉はレイホウ並に直立し、草姿および熟色は良好である。

2. 生態的特性: 出穂および成熟期はレイホウより5~6日おそい晩生種。耐倒伏性はレイホウより強く極強である。生産力は高く、登熟性がすぐれ、屑米が少なく精歩合が高い。

いもち病に対しては耐病遺伝子 Pi-a, Pi-k をもっているが、これを侵す菌系に対する場抵抗性は中程度で、農林18号、ハマカゼにまさる。白葉枯病にはレイホウ、センダイにまさり、トヨタマ並かやや劣る中程度であるが、耐病遺伝子をもっていないので1群菌の地帯ではレイホウに劣る。紋枯病にはやや弱く、縮葉枯病および萎縮病には弱い。最近九州各県で被害が目立っているわい化病には強く、ほとんど発病が認められない。

一 般 特 性

形 質	品 種 名	ミ ズ ホ	レイホウ	ハマカゼ
出 穂 期 (月日)		9. 6	8. 31	9. 5
稈 長 (cm)		75	79	80
穂 長 (cm)		18. 8	18. 7	18. 6
穂 数 (本/m ²)		345	351	367
芒の有無・長短		稀・短	稀・短	無
稈先色		白	白	白
脱粒性		易	中	易
倒伏抵抗性		極強	強	強
葉いもち病抵抗性	{ N C	極強 中	極強 "	弱 やや弱
穂いもち病抵抗性		"	—	"
白葉枯病抵抗性	{ I II	" "	強 やや弱	やや強 やや弱
矮化病抵抗性		強	弱	中
アール当玄米重(kg)		49. 2	42. 6	44. 8
玄米千粒重(g)		21. 7	22. 4	20. 7
玄米品質	上中~上下		中上	上下~中上
検査等級	3等上		3等下	3等中

調査地 宮崎県総合農試 (昭46~48年の3ヵ年平均)

適地および奨励品種採用県

熟期からみて南九州の平坦部および標高150~200mまでの高台地帯に限られる。宮崎県では主としてレイホウを対象に8,000ha、鹿児島県ではレイホウ、センダイを対象に10,000haの普及が見込まれている。

栽培上の注意

栽培法はレイホウに準じてよい。しかしいもち病に中程度であるから、いもち病の常発地はさけ、防除には十分注意する。また白葉枯病の防除にも留意することが望ましい。

命名の由来

熟色、稈実がよい良質品種で、かつて南九州の大型種であった瑞豊のよい血をうけた品種を意味する。